

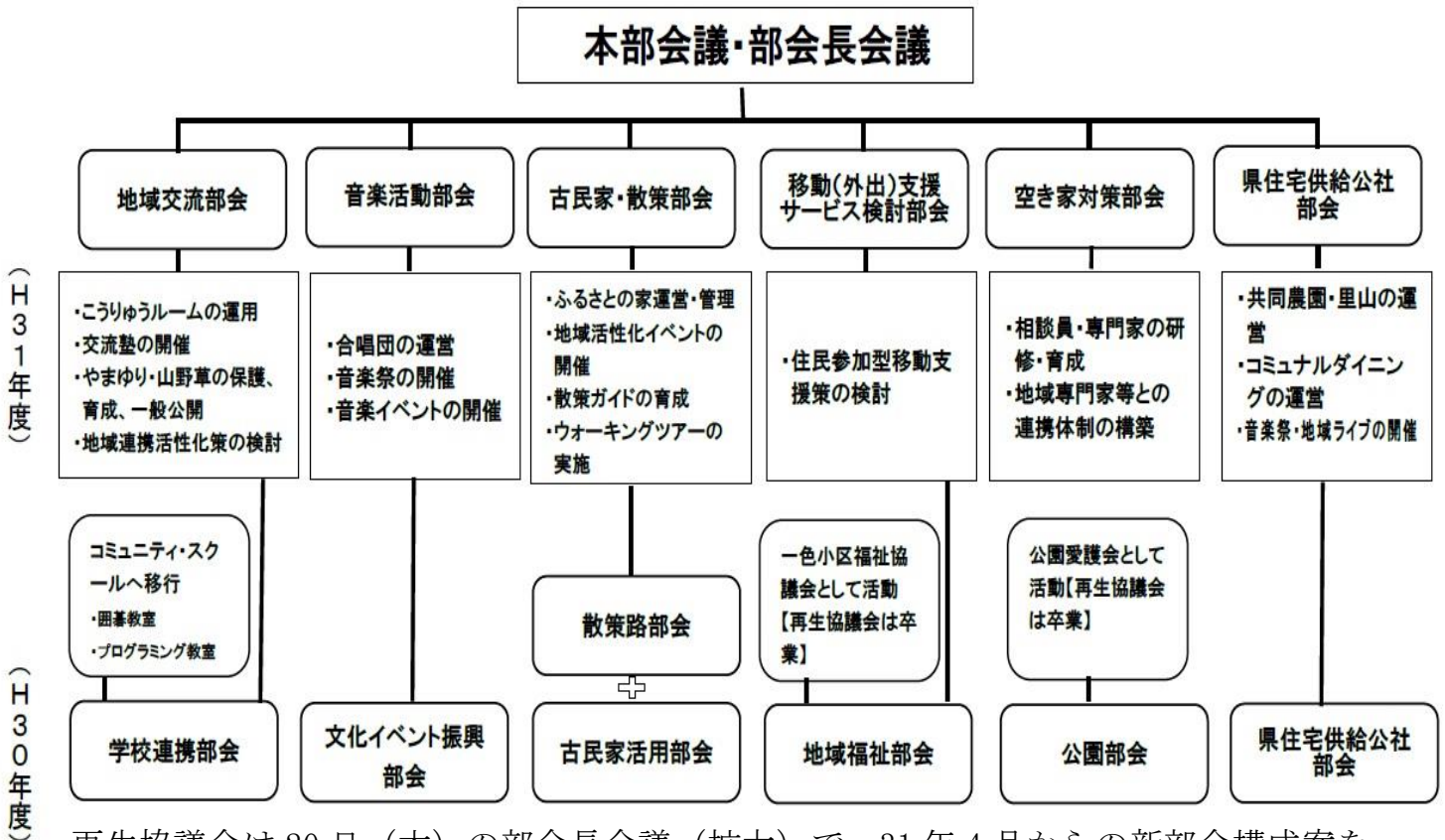


# 地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) [issiki-saisei@grace.ocn.ne.jp](mailto:issiki-saisei@grace.ocn.ne.jp)

## 再編後、6部会体制

### 31年度 空き家、福祉車両を新設



再生協議会は 20 日 (木) の部会長会議 (拡大) で、31 年 4 月からの新部会構成案を了承した。27 日 (木) の本部会議で正式決定する。新体制では、発足 4 年以後をにらんで地域福祉、公園部会を発展的に移行・解消し、空き家、移動 (外出) サービス検討の 2 部会を新設する。今後、新体制に基づく予算案づくりを急ぐ。

現 6 部会のうち、現行のまま残るのは県住宅供給公社部会だけ。発展解消する地域福祉部会は、町福祉部門と連携する一色小区福祉協議会を立ち上げており、新年度



散策路の標識設置工事(17日)

からは活動そのものを移行させる。また、公園・散策路部会のうち公園部門を発展解消するのは、地区内の都市公園整備が一巡したため、各地区の公園愛護会同士の連携をとりながら町都市整備課と協働する方が成果が上がるとの判断から。散策路は設定 6 コースの標識・案内板の設置、マップ作成が年度内にやまを越し、次年度からはこれらを使ったイベント展開に中心が移るため古民家活用部会と一体化させることにした。

学校連携部会は、一色小のコミュニティスクール化に合わせてプログラミング教室の開催などに取り組んできたが、同校の学校運営協議会のスタートに伴い活動そのものを切り離し、地域交流部会に改称する。やまゆり合唱団結成など存在感を増している文化イベント振興部会は、音楽分野に絞り込んだ活動を深化させるために改称する。

新設の空き家部会は、国交省の助成を受けて活動を始めた事業を独立部会に昇格させるもの。初年度は「空き家にしないための啓発セミナー」に重点を置いているが、新部会を拠点に活動のレベルアップを目指す。移動（外出）サービス検討は、通院や買い物などの外出や移動に支障が出ている住民の支援体制の可能性を探る狙い。当面は先行事例の調査・検証を中心に活動する。新設部会は全町からメンバーを募る。

再生協議会は今年度で国の財政支援が切れるため、二宮町の「引き続き支援する」（村田町長）との意向を確認のうえで新体制を検討してきた。8月以降、地区長、自治会長にも呼びかけた3度に渡る部会長（拡大）会議を開き、町部局とも協議を重ねていた。

## 標識・案内板を自前設置—散策路部会

散策路部会（高橋哲也部会長）は9月17日（月）、部会員など11人で標識・案内板の設置工事を行った。今春以来候補地の絞り込み、地権者の了解取付けに動いていたが、予算を節減する狙いから部会員を動員しての工事になった。

設置は10カ所で、内容は自立型5、貼付け型3、ミラー型2。このうち、最も手間のかかる自立型は地面に50cm四方、深さ50cmの穴を掘ってセメントを流し込み、その中に単管パイプを立てて標識を取り付けるもの。前日までにセメント、骨材などの手当てを終え、当日は一気に工事を進めた。

### 「もっと知ろう」第1回は満席に

「もっと知ろう一色・二宮」が9月15日（土）から始まった。第1回は中山史奈子さん（町生涯学習課）が二宮町の指定文化財について講演し、約50人が熱心に聞き入った。中山講師は配布した資料とパワーポイントを使って13文化財についてていねいに解説、会場からの質問に答えていた。町指定文化財の全貌を知る機会がめったにないだけに、一色小学校区以外からの参加者も多く、他教室から椅子を運び込んでやっと間に合わせた。この企画は来年3月まで続く。



満席のこうりゅうルーム

#### ＜当面のイベントスケジュール＞

- 9/29（土） 鈴木一男氏（町文化財保護委員） 「大磯・二宮の横穴墓群」
- 10/6（土） 県公社・国際こども音楽祭（ラディアン）
- 10/12（金） 木村 道子さん（ファイナンシャルプランナー）  
「シニア世代 家計と住まいのライフプランづくり」
- 10/14（日） 露木 泰彦氏（町文化財保護委員） 「二宮・一色の古道」
- 10/20（土） 相沢 るつ子さん（絵本作家） 「戦時下の二宮の子供たち」
- 10/27（土） 合唱祭（ラディアン）、一色小音楽会
- 10/30（火） 丸山 としこさん（整理収納アドバイザー） 「整理収納術」

\*音楽イベント以外の会場は地域こうりゅうルーム

